

ISFJ 日本政策学生会議 2009 年度 活動報告書

活動報告書 目次

掲載内容		ページ
代表挨拶・団体概要		3
活動理念		4
活動日程		5
イベント活動報告	ゼミ説明会	6
	第1回勉強会(東日本)	7
	第1回勉強会(西日本)	8
	第2回勉強会(東日本)	9
	第2回勉強会(西日本)	10
	中間カンファレンス(東日本)	11
	中間カンファレンス(西日本)	12
	第1回中間発表会(東日本)	13
	第1回中間発表会(西日本)	15
	第2回中間発表会(東日本)	17
	第2回中間発表会(西日本)	19
	政策フォーラム	21
	政策提言会	26
	財務報告	29
	協賛・後援	31
参加大学・研究会		32
報告書情報		33

代表挨拶



ISFJ 14 期代表

慶應義塾大学法学部 高田晴仁研究会

早稲森 啓太

私たち ISFJ 日本政策学生会議は「学生の政策提言による望ましい社会の実現」を理念として掲げる学生政策シンクタンクです。学生のもつ柔軟な思考・時代感性を活かし、社会が抱えている問題に向き合って解決策を考案し、その提案を社会に発信することを目的としています。

この理念・目的の達成のために今年度も勉強会や中間カンファレンスなどの企画を通じて政策論文の質を高めるための執筆支援を半年間にわたり行ってきました。また、今年度は政策の対外発信を強く意識して活動し、現職の国会議員を多数集めての「政策提言会」を実現いたしました。このイベントを開催するにあたって、例年の政策フォーラムを「学生の政策に相対的な評価を与え、選抜を行う場」へと位置づけを見直し、学生の参加意欲、論文の質を向上させることを実現し、より密度の高い政策提案を行うことができたと感じています。

ISFJ の活動は来年度で 15 年目の節目を迎えます。参加学生と団体規模は毎年拡大しており、多くの学生から共感を得ていることは大きな喜びであります。

一方で、ISFJ という団体そのものが旧態化しつつあること、活動が慢性化することを危惧してやみません。時代が変化するにつれ、ISFJ 設立当時と比べて、我々学生も変化してきております。

その時代の学生で構成される組織は、時代の変化に合わせ、常に新しいことに挑戦していかなければ、時代とずれが生じ、確実に衰退していきます。そして、弊団体のように運営者が一年ごとに交代するという形態をとっていればその可能性も高いものと思います。したがって我々運営に携わるものが常に高い問題意識を持って慢性化を打開し、「学生の政策提言による望ましい社会の実現」という理念達成に最適な形態をその時代時代で模索し続けていくことが求められます。

歴史と規模を活かし、学生と政策を結び、機会・組織の垣根を超えた議論の場を提供するという役割は変わりませんが、今後も常に新しい試みに挑戦していきたいと考えます。

最後に、我々 14 期スタッフも ISFJ への参加を通じて大きな成長を得ることができ、同時に多くの参加学生に成長の機会を提供する一助となりえたことを喜ばしく思います。ISFJ をご支援してくださった教授の皆様、企業・財団の皆様、我々を支えてくださった全ての方に厚く御礼申し上げます。

今後とも ISFJ をよろしくお願いいたします。

団体概要

団体名

ISFJ 日本政策学生会議

結 成

1994 年

スタッフ

10 大学 15 研究会 35 人（2009 年 2 月現在）

理 念

学生の政策提言による望ましい社会の実現

活動理念

ISFJ 日本政策学生会議は「学生の政策提言による望ましい社会の実現」を理念とし、学生による時代感覚を踏まえた政策立案の支援と政策の実現に向けた発表の場の提供を行っております。

元来、政策とは政治家や官僚といった政策担当者によるトップダウンの形で立案・提言されるものとされており、学生による政策提言を行う意味を疑問視する人もいるかもしれません。しかし、本来的には政策は社会全体のためにあるべきものであり、政策担当者による一元的な決定は決して望ましいものではないと私たちは考えます。そしてその意味において、学生による政策提言は非常に大きな意味を持っています。

これまで政策担当者のみが担ってきた政策市場に対して、学生が政策を提言していくことの最大の意味は、柵のない自由闊達な視座からの政策提言を行うことが出来るという点にあると私たちは考えています。政策担当者による政策立案の最大の欠点は、所属する省庁や部門によって政策の可能性が限定されてしまうという点にあります。たとえ社会にとって本当に必要な政策であったとしても、それが所属する組織の利益と合致しなければ採用されることはありません。しかし、私たち学生は所属する大学やゼミなどによって自分自身の行動が制約されることはなく、本当の意味で社会にとって必要な政策提言を行うことが可能となります。柵のない学生という立場から社会全体のニーズを反映した政策を提言することは、政策の受け手からのボトムアップの政策提言と言い換えることができ、真に望ましい政策提言のあり方であると言えるでしょう。

そして、このような学生による政策提言を通じて望ましい社会を実現するために私たちは2つの行動目標を掲げています。

ひとつは政策市場に通用する政策を考案するための支援です。学生が政策提言を行うにあたり、これまでの机上の学問を通じて体得した学生の知識や考えを実際の社会問題を解決する政策へと昇華させるための支援が必要不可欠であることは言うまでもありません。

いまひとつは考案された政策を実現するための発表の場の提供です。政策提言の最終目標はその政策の実現を通じた社会の変革であり、政策が発表されることは政策実現の第一歩であると言えます。政策発表は政策の実現可能性を高めるという意味で政策担当者に対して行うことはもちろんのこと、その政策の必要性が広く社会に認知され、その政策が支援されることを目的として学生を含む一般の方に対しても行われます。

これら2つの行動目標に基づき、私たちの活動は行われています。そして、私どもの活動を通じて生み出された政策あるいは人材が望ましい社会を実現するための一端を担うことが出来るであろうと確信しています。

2009 年度活動日程

東日本

5 月 7、8 日

ゼミ説明会

(慶應義塾大学 三田キャンパス、
明治大学 駿河台キャンパス)

6 月 21 日

第 1 回勉強会

(明治大学 駿河台キャンパス)

7 月 19 日

第 2 回勉強会

(明治大学 駿河台キャンパス)

8 月 25 日

中間カンファレンス

(明治大学 駿河台キャンパス)

9 月 22 日

第 1 回中間発表会

(明治大学 駿河台キャンパス)

10 月 17 日

第 2 回中間発表会

(明治大学 和泉キャンパス)

12 月 12、13 日

政策フォーラム

(慶應義塾大学 三田キャンパス、明治大学 駿河台キャンパス)

1 月 17 日

政策提言会

(明治大学 駿河台キャンパス リバティタワー)

西日本

5 月 9、10 日

ゼミ説明会

(同志社大学 今出川キャンパス、
大阪大学 豊中キャンパス)

6 月 21 日

第 1 回勉強会

(大阪大学 豊中キャンパス)

7 月 19 日

第 2 回勉強会

(神戸大学 六甲台キャンパス)

8 月 29 日

中間カンファレンス

(大阪大学 豊中キャンパス)

9 月 22 日

第 1 回中間発表会

(京都大学 吉田キャンパス)

10 月 18 日

第 2 回中間発表会

(同志社大学 今出川キャンパス)

ゼミ説明会

東日本

【日時・場所】

2009年5月7日（木）、8日（金）

慶應義塾大学 三田キャンパス / 明治大学 駿河台キャンパス

西日本

【日時・場所】

2008年5月9日（土）、10日（日）

同志社大学 今出川キャンパス / 大阪大学 豊中キャンパス

【企画概要】

本説明会は、本団体の活動への参加を検討されている研究会に対し、ISFJがどのような団体であるのかを知っていただき、今年度の活動予定についてご説明することを目的としています。スケジュールや参加の手続きについての説明にとどまらず、「学生の政策提言による望ましい社会の実現」という団体の活動理念と、それに基づく活動の実績についてもお話させていただきました。

【企画責任者より】

今回のゼミ説明会では、2009年度の年間スケジュールやISFJの参加方法等の事務的な内容から、昨年度ISFJに参加された学生による論文執筆の体験談やISFJ運営委員との座談会を行うことで、参加者の方々にはより明確なISFJの活動をイメージして頂けたと考えています。また、今回のゼミ説明会において、多くの参加者に「学生の政策提言による望ましい社会の実現」というISFJの理念に共感して頂き、これからの政策論文執筆の意識付けができたという点で、今回のゼミ説明会は大変意義深い企画であったと実感しています。

第1回勉強会（東日本）

【日時・場所】

2009年6月21日(日)明治大学 駿河台キャンパス

【参加大学・ゼミ・学生数】

11大学 25ゼミ 113名

【企画構成】

第1部：講演「政策とは何か」

第2部：グループディスカッション、ゲスト講評

【企画趣意】

これからISFJの活動に参加する学生に対し、政策とはいかなるものかということを学んでいただく機会と位置づけました。政策提言論文を執筆する上で、まず根幹となる「政策」に焦点を当て、その実態や必要性、提言の有用性について理解を深めていただくとともに、実社会の問題についての解決策を考案する機会を提供することで、問題の捉え方や解決策の導き方を学んでもらうことを目的としました。

【第1部講演者】

産業政策計画研究所株式会社 代表取締役

柳橋 正廣 様

【第2部ゲスト】

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

田畑 壽邦 様

参議院農林水産委員会調査室

稲熊 利和 様

財団法人 日本総合研究所

小林 由里子 様

財団法人 日本都市センター

鬼木 達矢 様

【企画責任者より】

第1回勉強会は、これから政策提言論文を執筆していく参加学生の皆様に対し、まず根幹となる政策そのものに焦点をあて、その実態や提言の必要性について理解を深めていただくと共に、実社会の問題に対して問題意識を持ち、その解決策を導く機会を提供することで、「政策」とはいかなるものかを認識していただくことを目的に行いました。

第1部の全体講演では、実際に現場で政策に携わっている方からお話を頂いたことで、学生が政策提言を行う上で意識すべき点や、どのような切り口や視点を持って政策を考案していくべきかということについて理解を深めていただくことができました。また、第2部ではグループワークを通して、政策提言論文を執筆していく上でどのように実社会の問題を捉え、それに対する解決策をどのように導くべきかという、政策を考案する上でのプロセスやそれに伴う考え方について学んでいただけたと考えております。

アンケートでは「他大学の学生との議論が良い刺激になった」等、非常に充実した時間を過ごすことができたとの意見を頂き、今回の勉強会が今後論文執筆を進めていく上での足がかりになったと確信しております。

第1回勉強会（西日本）

【日時・場所】

2009年6月21日(日)大阪大学 豊中キャンパス

【参加大学・ゼミ・学生数】

12大学27ゼミ105名

【企画構成】

第1部：パネルディスカッション

「くにつくり～政策を「つくる」立場から～」

第2部：グループワーク、ゲスト講評

【企画趣意】

第1回勉強会では、参加者の大半が政策論文を書いたことがない3年生であることを考慮し、政策をうつまでの流れ・政策論文を書くことの基本を学んでもらうために行いました。

今回は今年度初めての勉強会であったため、細かいテクニックなどを学ぶのではなく、政策論文を書く全体像をイメージできるように企画しました。

【第1部パネルディスカッションゲスト】

＜パネラー＞

池田市市長

倉田 薫 様

大阪府府議会議員

おだ 一郎 様

＜ファシリテーター＞

大阪大学経済学部教授

山田 雅俊 様

【企画責任者より】

今回は第1回勉強会ということで、まだ論文に取り掛かっていない参加者や、論文のテーマを探している参加者が多く、そのような参加者にとって政策論文がどのようなものか、そのためには何が必要であるかを知ってもらうことができたのではないかと思います。

パネルディスカッションでは市長や議員さんの生の声を通して実際に起こっている問題に関して知ってもらうことができたと思います。

グループワークについては、もっと参加者に与えるデータを洗練する必要があったと感じましたが、その中でも他大学の参加者同士で共に現状整理から政策提言まで議論し、発表したことで、グループで協力して考えること、また、論文を書く流れを感じてもらえたと思います。

ゲストコメンテーターの方々も非常に熱心な方だったので参加者も運営も勉強になりました。参加者にとってこの第1回勉強会はこれから政策論文を執筆するにあたって、有用な企画になったと思います。

第2回勉強会（東日本）

【日時・場所】

2009年7月19日(日)明治大学 駿河台キャンパス

【参加大学・ゼミ・学生数】

11大学 21ゼミ 77名

【企画構成】

第1部：講演「論文の書き方」

第2部：グループワーク「ロジカルシンキング講座」
ゲスト講評



【企画趣意】

大部分の参加者は論文の執筆経験が無く、ゼミ活動も始めたばかりという者も多数います。そのため、最終的な発表の場である「政策フォーラム」に向けて、論文の書き方、論理的な思考方法について参加者に学んでいたことを目的としました。

【第1部講演者】

早稲田大学政治経済学部教授

須賀 晃一 様

【第2部ゲスト】

株式会社 ガイアックス

平林 悠基 様

株式会社 三菱総合研究所

吉田 直樹 様

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究課

西山 敏樹 様

【企画責任者より】

第2回勉強会では、参加学生の皆様に論文執筆していくにあたり重要となる「論文の書き方」に焦点を置き、講演やグループワークを通じて論文執筆の進め方やロジカルシンキング・論理的思考力を学んで頂きました。

第1部の全体講演では大学の教授の方に御講演頂き、如何にして論文を書いていくのか、論文を執筆していく上での重要な整合的な論理展開の進め方等を御教授して頂きました。

パワーポイントを使用し、参加者の方々にも理解しやすい説明だったかと考えております。

また、第2部ではグループワークという実践の場を通して、第1部で学んで頂いたロジカルシンキングの重要性を体感して頂くことを目的と致しました。コンサルタントやシンクタンクといった普段から特に論理的思考力を駆使していらっしゃる方々をゲストとしてお招きし、様々な御指導を賜りました。

アンケートでは「論理的思考とは何かを考えながら課題に取り組めた」等の意見を頂き、今回の勉強会が前回の第1回勉強会に引き続き、参加者の方々にとって今後論文執筆を進めていく上で大変有益なものであったと確信しております。

第2回勉強会（西日本）

【日時・場所】

2009年7月19日(日)神戸大学 六甲台キャンパス

【参加大学・ゼミ・学生数】

10大学24ゼミ86名

【企画構成】

第1部：講演

「今学生に足りないもの～社会人基礎力のススメ～」

第2部：分科会

テーマ〔地域／社会保障／財政・金融／国際経済／環境・エネルギー〕



【企画趣意】

第2回勉強会を通して学生が国づくり、まちづくりに興味関心を持ち、主体的に動く重要性、そして政策の奥深さ、また政策提案に止まらず実現段階を目指すという意識を持つことを目的としました。

【第1部講演者】

近畿経済産業局 地域経済部 産業人材政策課長

内海 美保 様

【第2部ゲスト】

<財政・金融班>

神戸大学教授

入谷 純 様

<国際経済班>

神戸大学教授

久保 広正 様

<地域班>

近畿経済産業局 地域経済部 産業人材政策課長

内海 美保 様

<地域班>

同志社大学 経済学部研究科

八木 匡 様

【企画担当者より】

第2回勉強会では論文作成に向けて、参加者自身が自分の興味関心の範囲を決定出来るように、5つのテーマによる分科会を第2部で持ってきました。

第1部の内海様による「今、学生に足りないもの」をテーマに講演に関しては、内海様が勤務されている部署が取り組んでいる「産業界と共同で取り組む人材育成」といった内容をお話いただきました。

参加者からは、「実務として地域行政の推進をされている方の話を聞く機会は滅多にないのでとてもよかった」など、とても貴重な機会だったという声を多く頂きました。

第2部の分科会に関しては分科会毎のテーマに合わせてディベートやグループワークを行って頂きました。参加者の声から「議論が白熱して、その分理解も深まった」など、分科会の充実さが伺えました。

アンケートや当日の様子から、今回の第二回勉強会を通して参加者の意欲、論文に対するモチベーションは高まったように伺えます。いい形で中間カンファレンスに繋げる形になったと思います。

中間カンファレンス（東日本）

【日時・場所】

2009年8月25日(日)明治大学 駿河台キャンパス

【参加大学・ゼミ・学生数】

10大学32ゼミ97名

【企画構成】

第1部：昨年度参加者による講演

第2部：今年度参加者による発表
(各分科会)



【企画趣意】

第1回勉強会・第2回勉強会において、各研究会は論文執筆のプロセスや論理的思考方法を会得しました。

今回はその技術を基に、研究方向性報告書に基づいた分科会に振り分け、各研究会が進行中である論文執筆作業の進捗状況を中間報告していただきました。

学生による論文執筆作業進捗状況のプレゼンテーションや、それに対する他研究会からの質疑応答を主な内容とし、それによる他研究会との進捗状況の比較により、論文執筆に更なる洗練を与えることを目的としました。更に昨年度参加者によるアドバイスも内容に加え、より一層充実を図りました。

【企画責任者より】

第1回勉強会・第2回勉強会において参加者に会得してもらった、論文執筆のプロセスや論理的思考方法を基に、各研究会が進行中である論文執筆作業の進捗状況を中間報告する、という目的でこの中間カンファレンスというものを催しました。

第1部では、昨年度参加者をゲストとして招き、昨年度の自らの論文の執筆や反省点等についてプレゼンして頂きました。参加者の視点から、現状においてどれほど作業が進められているのか、また今後どのように論文執筆を行っていくべきなのかということを発表していただき、本年度参加者にとってある種の一里塚になったように思われます。

第2部では参加者を論文毎に振り分け、現在執筆している論文についての進捗報告を行ってもらいました。先行研究を選んだ理由や問題意識、政策の方向性について発表してもらい、参加者同士で活発な質疑応答や意見交換がなされました。

アンケートにおいても、「自分たちの進行状況が把握できた」「パワーポイントの使い方や発表の組み立て方が様々で参考になった」との意見があり、今後の論文のブラッシュアップに向けての良い足掛かりになったと思います。

中間カンファレンス（西日本）

【日時・場所】

2009年8月29日(土) 大阪大学 豊中キャンパス

【参加大学・ゼミ・学生数】

12大学 24研究会 97名

【企画構成】

第1部：昨年度参加者による講演

第2部：今年度参加者による発表
(各分科会)



【企画趣意】

研究方向性報告書で参加者に報告してもらう内容に関して、学生同士の議論を元に、特に論文の骨組の部分のレベルの底上げを図りました。

第1部は、昨年度参加者によるプレゼン発表、昨年度参加者から体験談を伺う、という形をとることで参加者に自分たちが目指すゴールをイメージしてもらい、論文に関して不安を減らすことを目的としました。

第2部は参加者によるプレゼン、そしてそれに対する参加者と昨年度参加者からの質疑応答という形をとることで、論文の骨組部分を固めてもらうことを目指しました。

【企画責任者より】

第1部では、昨年度参加者をゲストとして招き、政策フォーラムで実際発表して頂いた内容を参加者に聞いて頂きました。その後、昨年度の体験談もお話して頂きました。

参加者からは、今の時点でどのようなことに特に力を入れるべきかなど、参加経験のある先輩からアドバイスを頂け、大変有意義な機会だったとの声がありました。また、論文発表から、具体的に自分たちの目指すレベルを意識することが出来たようでした。

第1部を通して、参加者のモチベーションも上がったように感じます。

第2部では参加者をテーマ毎に7つの分科会に振り分け、現在執筆している論文について発表して頂きました。参加者からは、「自分たちだけでは気付かない質問が来たことが非常に勉強になった」「自分たちに足りない部分を確認することが出来た」などの声がありました。参加者にとって他大学の学生と論文に関して議論を交わしたこの経験が、中間発表会に向けた今後の論文のブラッシュアップへの力強い一歩になったと思います。

第1回中間発表会（東日本）

【日時・場所】

2009年9月22日(火)明治大学 駿河台キャンパス

【参加大学・ゼミ・学生数】

11大学 28ゼミ 209名

【企画構成】

各分科会での中間論文発表、ゲスト講評



【企画趣意】

ISFJでは、「学生の政策提言を通じた、学生の望む日本社会の実現」という理念のもと活動を行っており、その最終的な目的は学生により提言された政策が実現されることです。

そのためには、提言された政策が現実社会の問題に対する解決策として実用的であること、また、政策が実現可能であることが重要になります。

中間発表会はその政策提言論文の進捗状況の発表を行う場として位置づけられており、論文の分野ごとに設置する分科会に実務家や大学教授の方々をゲストコメンテーターとして招き、ご意見・ご講評をいただくことで論文内容の一層の充実を図ることを目的としました。

【ゲストコメンテーター】

<金融分科会>

経済金融アナリスト

津田 栄 様

学習院大学経済学部教授

細野 薫 様

金融庁 監督局総務課 総括補佐

藤岡 隆雄 様

<環境分科会>

中央大学 経済学部 教授

谷口 洋志 様

上智大学大学院地球環境学研究科 委員長

鷲田 豊明 様

<財政分科会>

世界平和研究所 研究員

小黒 一正 様

<労働分科会>

独立行政法人 労働政策・研修機構

藤本 真 様

日本大学大学院総合科学研究科准教授

安藤 至大 様

労働経済アナリスト

鍋田 周一 様

<都市政策>

横浜市立大学国際総合科学部教授准教授

鞠 重鎬 様

一橋大学大学院商学研究科教授

山内 弘隆 様

明治大学商学部講師

溜川 健一 様

＜農業分科会＞

銀座農業塾 塾長

高安 和夫 様

NPO法人日本プロ農業総合支援機構

上原 学 様

＜医療分科会＞

一橋大学大学院国際・公共政策大学院教授

井伊 雅子 様

学習院大学経済学部教授

遠藤 久夫 様

＜産業分科会＞

横浜国立大学教授

鳥居 昭夫 様

＜教育分科会＞

民主教育研究所 運営委員

神山 正弘 様

＜行政分科会＞

明治大学法学部法律学科専任講師

黒澤 睦 様

郵政民営化監視市民ネット

稲垣 豊 様

下見 徳章 様

明治大学大学院 ガバナンス研究科教授

北大路 信郷 様

【企画責任者より】

第1回中間発表会は、参加者にとって、これまでの第1・2回勉強会や中間カンファレンスにて培った論文執筆能力や政策提言能力を駆使して、初めて自分たちで作ったものを外へと発表する場となりました。

テーマに沿って14の分科会に分かれ、それぞれの分科会では各研究会の発表とそれに対する質疑応答、及びコメンテーターの方々からの御講評という内容で行いました。

ほとんどの研究会が15分間というプレゼン時間を守り、参加者による質疑応答も積極的に行われました。テーマごとに分科会を区分したため、参加者からの質問もより専門性の高いものでした。

ゲストの方々からの御講評は、事前に参加者が執筆した中間論文を見て頂いていたため、要所要所に対して的確なアドバイスを下さり、また時には叱咤激励をして頂き、参加者にとって今後の政策提言論文の執筆活動に非常に参考になったことと確信しております。

後に予定している第2回中間発表会、政策フォーラム、及び新たに設けたイベント「政策提言会」に向けて、参加者のみならず運営スタッフ共々今後も精進して参りたいと存じます。

第1回中間発表会（西日本）

【日時・場所】

2009年9月22日(火)京都大学 吉田キャンパス

【参加大学・ゼミ・学生数】

14大学30ゼミ174名

【企画構成】

第1部：ゲストの方による講演

第2部：各分科会での中間論文発表、ゲスト講評

【企画趣意】

中間論文発表会は6、7月に行った勉強会で養った学生のくにつくり、まちづくりに対する興味関心を政策提言論文の形にしたものを学生が発表しました。

この発表に対して、ゲストの方からのアドバイスや参加者同士の議論を通じて、更に論文を発展させていくことを目的としました。

【ゲストコメンテーター】

<医療分科会>

京都産業大学教授

福井 唯嗣 様

京都府医師会会長

森 洋一 様

<行政政策分科会>

関西大学教授

林 宏昭 様

同志社大学院生

壁谷 順之 様

<財政金融分科会>

近畿大学教授

安孫子 勇一 様

三菱UFJ リサーチ&コンサルティング

清谷 康平 様

<社会保障分科会>

京都大学教授

岩井 八郎 様

<労働分科会>

同志社大学教授

川口 章 様

関西学院大学院研究員

林 智子 様

<地域産業分科会>

同志社大学教授

井口 貢 様

名古屋学院大学教授

古池 嘉和 様

<国際政策分科会>

大阪大学教授

山内 直人 様



【企画責任者より】

今回の第一回中間発表会では学生同士の議論、そしてゲストの方々のアドバイスを通して論文の更なるレベルアップ、そして自分たちに足りない視点や発想を学んでいただきました。

前回の中間カンファレンスでは学生のみで議論して頂きましたが、今回は教授や幅広い分野の実務家のゲスト様をお招きしての論文発表会でしたので、より具体的に、そして専門的なアドバイスを頂くことが出来、参加者も論文の向上に繋がるヒントを多く得ることが出来たのではないかと思います。

第1部の講演では先生方の専門分野の話から、学生が政策提言をする上で大切にすべきこと、といったテーマまで、幅広いお話をして頂きました。参加者からはアンケートより、「もっと論文作成を頑張ろうと思った」といった声や、「深い内容を短時間で講演されていたので、機会があればもっと話を聞きたい」といった声を頂きました。

第2部の中間論文発表に関してはアンケートより「多くの質問を受け、論文の発展につながった」といった声や「他ゼミの進度、完成具合がわかり、大変良い刺激となった」という声を頂きました。

今回の会を通して次回の中間発表会に向けてそれぞれの課題が明確になり、更に意欲的に論文作成に取り組む、有意義な機会となったのではないのでしょうか。最終論文に向けてあと1回中間発表会が控えています。今回至らなかった点に関して次回は参加者の皆さんに満足して頂ける会に出来るよう、運営者も一層努力していきたいと思っております。

第2回中間発表会（東日本）

【日時・場所】

2009年10月17日(日) 明治大学 和泉キャンパス

【参加大学・ゼミ・学生数】

10大学24ゼミ200名

【企画構成】

各分科会での中間論文発表、ゲスト講評

【企画趣意】

ISFJは、「学生の政策提言を通じた、学生の望む日本社会の実現」という理念のもと活動を行っており、その最終的な目的は学生により提言された政策が実現されることです。

そのためには、提言された政策が現実社会の問題に対する解決策として実用的であること、また、政策が実現可能であることが重要になります。

中間発表会はその政策提言論文の進捗状況の発表を行う場として位置づけられており、論文の分野ごとに設置する分科会に実務家や大学教授の方々をゲストコメンテーターとしてお招きし、ご意見・ご講評をいただくことで論文内容の一層の充実を図ることを目的としております。

【ゲストコメンテーター】

<労働分科会>

産業カウンセラー・CDA

山田 修 様

<環境分科会 A>

三菱総合研究所

吉田 直樹 様

株式会社エックス都市研究所

山崎 智雄 様

<環境分科会 B>

慶應義塾大学環境情報学部教授

齋 綱林 様

日本福祉大学経済学部教授

西村 一彦 様

立教大学経済学部教授

田島 夏与 様

<産業分科会 A>

慶應義塾大学商学部教授

井手 秀樹 様

<産業分科会 B>

横浜国立大学大学院環境情報研究院教授

三井 逸友 様

<都市政策分科会>

東京大学准教授

加藤 浩徳 様

東洋大学国際地域学部教授

長濱 元 様

<医療分科会>

政策研究大学院大学助教授

齋藤 裕美 様

特定非営利法人日本医療政策機構

沢口 絵美子 様



＜財政分科会 A＞

経済産業研究所研究員

中田 大吾 様

慶応義塾大学教授

麻生 良文 様

日本経済研究センター

猿山 純夫 様

＜財政分科会 B（航空）＞

慶應義塾大学総合政策学部教授

上山 信一 様

＜金融分科会＞

経済金融アナリスト

津田 栄 様

慶應義塾大学商学部准教授

渡部 和孝 様

＜農業分科会＞

三菱総合研究所

木附 誠一 様

＜教育分科会＞

早稲田大学教育学部教授

三尾 忠男 様

【企画責任者より】

第2回中間発表会は前回の第1回中間発表会同様、学生の論文の進捗状況を外部に発表しブラッシュアップを行う場として企画いたしました。

テーマに沿って14の分科会に分かれ、それぞれの分科会では各研究会の発表とそれに対する質疑応答、及びコメンテーターの方々からの御講評という内容で行いました。

ほとんどの研究会が15分間というプレゼン時間を守り、参加者による質疑応答も積極的に行われました。テーマごとに分科会を区分したため、参加者からの質問もより専門性の高いものでした。

ゲストの方々からの御講評は、事前に参加者が執筆した中間論文を見て頂いていたため、要所要所に対する的確なアドバイスを下さり、また時には叱咤激励をして頂きました。

また今回はコメンテーターの方に「モデレーター」としてもお願いし、論点整理や議論の活発化を図って頂きました。前回以上に、参加者にとって政策提言論文完成に向け非常に有意義であったことと確信しております。

11月上旬に迎える最終論文の提出、及び政策フォーラムや政策提言会に向けて、参加者のみならず運営スタッフ共々今後も精進して参りたいと存じます。

第2回中間発表会（西日本）

【日時・場所】

2009年10月18日(日) 同志社大学 今出川キャンパス

【参加大学・ゼミ・学生数】

14大学 28ゼミ 150名

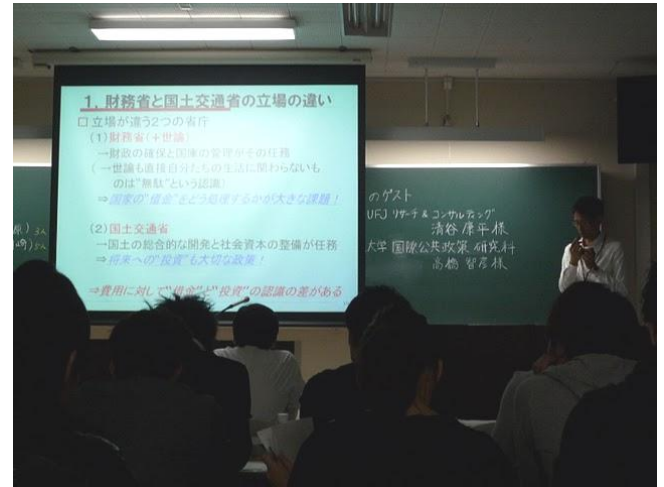
【企画構成】

第1部：ゲストの方による講演

第2部：各分科会での中間論文発表、ゲスト講評

【企画趣意】

第二回中間論文発表会は9月に開催した第一回同様、分科会毎に参加研究会の発表を行い、ゲストの方や参加者からのフィードバックを受け、最終論文に向けて更に内容を深めていくことを目的としました。



【ゲストコメンテーター】

<医療分科会>

京都橘大学准教授

高山 一夫 様

大阪大学経済学研究科在籍

立福 家徳 様

<金融財政分科会>

三菱UFJ リサーチ&コンサルティング

清谷 康平 様

大阪大学経済学研究科在籍

高橋 智彦 様

<行政政策分科会>

同志社大学教授

風間 規男 様

関西大学教授

本西 泰三 様

<社会保障分科会>

京都大学教授

岩井 八郎 様

<国際政策分科会>

神戸大学教授

金京 拓司 様

三菱UFJ リサーチ&コンサルティング

木下 祐輔 様

<地域産業分科会>

京都大学名誉教授

池上 惇 様

京都大学名誉教授

山田 浩之 様

<労働分科会>

同志社大学教授

富田 安信 様

【企画責任者より】

今回は参加者の方に前回の発表会で得たアドバイスなどをヒントに中間論文を執筆してきて頂き、テーマに沿った分科会に分かれて発表していただきました。社会人の方や外部の学生にアドバイスをもらうことで、参加者も論文の向上に繋がる新鮮なヒントを多く得ることが出来たのではないかと思います。

第1部の講演ではゲストの方に論文執筆や政策提言に関するお話から、分科会のテーマに応じたお話など、論文執筆の上でも大変勉強になるお話をお聞かせ下さいました。参加者からはアンケートより、「新鮮な内容であり、自分たちの論文にも生かしたい」といった声や、「論文を執筆する上でも、現実の問題を見る上でも有効な視点を得られた」といった声を頂きました。

第2部の中間論文発表に関してはアンケートより「ゲストの方からの指摘により自分たちの不足している点に気づくことができた」といった声や「最終段階の発表なので他ゼミの発表も完成度が高く、非常に参考になった」という声を頂きました。

今回の中間発表会が参加者の方にとって、研究内容を深める有意義な機会となっていることを願います。11月の最終論文提出まで残りあと僅かとなりましたが、12月の政策フォーラムに向けて、運営スタッフも更に努力して行きたいと思います。

政策フォーラム 2009

【日時・場所】

1日目：2009年12月12日（土）慶応義塾大学 三田キャンパス

2日目：2009年12月13日（日）明治大学 駿河台キャンパス

【参加大学・ゼミ・学生数】

26大学 57研究室 527名

【企画構成】

1日目：開会式、基調講演、論文発表

2日目：論文発表、基調講演、表彰式、閉会式



【企画趣意】

本年度の ISFJ の活動を通して執筆された政策提言論文を基に、学生が自ら考案した政策を発信する場を提供すること、そして学生同士の学び合いの場を提供することを目的としております。

学生から提言された政策を、「実際に社会に普及させることが出来る政策」に少しでも近づけるための足がかりとして、分科会ごとに実際の政策立案に携わる官僚やシンクタンク職員などの実務家の方に対して政策提言を行う場を提供致します。

【基調講演ゲスト（1日目）】

参議院議員

山本 一太 様

【基調講演ゲスト（2日目）】

国家基本問題研究所 評議員・企画委員

大岩 雄次郎 様

【ゲストコメンテーター（1日目）】

<医療分科会A>

日本医療政策機構 市民医療協議会

沢口 絵美子 様

社団法人 日本看護協会政策企画部

笏賀 秀樹 様

<医療分科会B>

日本医療政策機構 市民医療協議会

乗竹 亮治 様

政策研究大学院大学 助教授

齊藤 裕美 様

<環境分科会A>

株式会社ケー・シー・エス 環境政策部グループリーダー

太田垣 貴啓 様

株式会社三菱総合研究所

吉田 直樹 様

<行政分科会A>

産業政策計画研究所株式会社 代表取締役

柳橋 正廣 様

三菱総合研究所ケー・シー・エス 代表取締役

天野 洋文 様

<地域分科会>

財団法人日本都市センター 研究室 研究員

中西 規之 様

国土交通省 住宅局住宅生産課審査係長

藤原 健二 様

<地域分科会B>

株式会社ケー・シー・エス 社会政策部ゼネラルマネージャー

室谷 亮 様

財団法人 日本都市センター 研究室 研究員

鬼木 達矢 様

ふるさと総研株式会社 ふるさと回帰総合政策研究
所 代表取締役所長

玉田 樹 様

<金融分科会A>

金融庁

藤岡 隆雄 様

経済ジャーナリスト

松崎 隆司 様

<国際金融分科会>

日本銀行 国際局 企画役 アジア金融協力センター
企画担当

飛弾 則雄 様

経済・金融アナリスト

津田 栄 様

<産業分科会A>

国立情報学研究所 助教

上田 昌史 様

東京経済大学専任講師

黒田 敏史 様

<財政分科会A>

株式会社三菱総合研究所 政策・経済研究センター

白石 浩介 様

東京財団 政策研究部 研究員

佐藤 孝弘 様

<交通分科会>

財団法人計量計画研究所 都市・交通研究部 部長

鈴木 奏到 様

慶應義塾大学 商学部 教授

中条 潮 様

<農業分科会>

農林水産研究所 企画広報室 室長

出田 安利 様

参議院 農林水産委員会 調査局

大川 昭隆 様

<労働分科会A>

東京財団 研究員 兼 政策プロデューサー (緊急雇
用戦略プロジェクト メンバー)

富田 清行 様

産業カウンセラー・CDA

山田 修 様

<労働分科会B>

株式会社野村総合研究所 研究創発センター 兼 社
会産業コンサルティング部 副主任コンサルタント

岡村 篤 様

独立行政法人 労働政策研究・研修機構 労働市場雇
用戦略部門 研究員

藤井 宏一 様

【ゲストコメンテーター（2日目）】

＜教育分科会A＞

東京大学大学院教育学部研究科

小玉 重夫 様

コアネット総合研究所 所長

松原和之 様

＜教育分科会B＞

日本教育政策学会事務局長

前原 健二 様

株式会社日本総合研究所 上席主任研究員

吉田 賢一 様

＜環境分科会B＞

国立情報学研究所 助教

上田 昌史 様

大阪大学教授

山内 直人 様

参議院議員 福山哲郎事務所 政策秘書

臼井 章喜 様

＜行政分科会B＞

産業政策計画研究所株式会社 代表取締役

柳橋 正廣 様

明治大学法学部法律学科 (刑事訴訟法) 専任講師

黒澤 睦 様

厚生労働省社会保障担当参事官室 室長補佐

山田 章平 様

＜金融分科会B＞

経済・金融アナリスト

津田 栄 様

金融庁

藤岡 隆雄 様

＜国際政策分科会＞

独立行政法人国際協力機構 JICA 研究所 計画課課長

田中 啓生 様

財団法人日本国際フォーラム主任研究員

若林 秀樹 様

＜財政分科会B＞

株式会社 日本総合研究所 総合研究部門 主席研究員

岡田 考 様

株式会社富士通総研 (FRI) 経済研究所

長島 直樹 様

＜産業分科会B＞

日本政策金融公庫 取締役

松井 哲夫 様

中小企業庁事業環境部金融課 課長補佐

星島 郁洋 様

＜年金分科会＞

東洋大学経済学部講師 兼 日本財政学会所属

中澤 克佳 様

株式会社野村総合研究所 金融フロンティア事業本部

主席研究員 兼 社団法人日本アクチュアリー会正会員 年金数理人

坂本 純一 様

＜農業分科会B＞

参議院 農林水産委員会 調査室 室長

鈴木 朝雄 様

＜労働分科会C＞

独立行政法人 労働政策研究・研修機構 労働市場 雇用戦略部門 研究員

藤井 宏一 様

東京財団 研究員 兼 政策プロデューサー (緊急雇用戦略プロジェクト メンバー)

富田 清行 様

【受賞論文】

＜最優秀論文賞＞

「少子高齢社会における新たな選挙制度の構築—多様な世代の意見を国会に反映させるために—」

慶應義塾大学 土居丈朗研究会（行政分科会）

＜政策提言賞＞

「少子高齢社会における新たな選挙制度の構築—多様な世代の意見を国会に反映させるために—」

慶應義塾大学 土居丈朗研究会（行政分科会）

＜優秀論文賞＞

「人口動態が経済成長に与える影響と対策」

慶應義塾大学 土居丈朗研究会（労働分科会）

「EPA推進のための林業改革への提言—補助金に依存した間伐事業からの脱却—」

神戸大学 石黒馨研究会（農業分科会）

「J-REIT 復活の処方箋」

神戸大学 岩壺健太郎研究会（金融分科会）

【企画責任者より】

政策フォーラムは、これまでの論文執筆活動の集大成として、学生が実務家・官僚・教授へ直に政策提言を行う場として企画されたものであり、毎年恒例のイベントとなっております。

これまでの中間発表会同様、テーマごとに 14 の分科会に分かれ、それぞれの分科会では各研究会の発表とそれに対する質疑応答、ゲストの方々からの御講評という内容で行いました。質疑応答は活発に行われ、講評も今まで以上に鋭く指摘されました。また、今回はこちらで用意致しました「評価シート」に基づいて、参加者のプレゼンや論理構成等を論文審査委員の方々とはまた別に評価基準を設けることで、参加者もより一層、当日の発表に対して真剣に取り組んでおりました。

全体で集まる場では、基調講演として 1 日目に参議院議員の山本一太氏、2 日目に国家基本問題研究所評議員の大岩雄次郎氏をお呼び致しました。いずれの講演でも、「民からの政策提言の可能性・意義」をテーマに話して頂き、今後社会へ出ていく学生たちにとって非常に有意義なものとなりました。質疑応答では、両日において講演者と学生の議論が盛んに行われ、大変活気のある講演ともなりました。

また、閉会式においては最優秀論文賞・優秀論文賞・政策提言賞の論文が選ばれ、各分科会トップで選ばれた論文は、1 月に予定している政策提言会への参加資格を取得することとなりました。この政策提言会では民主党の議員をお呼びし、更なる政策提言を行う予定です。



政策提言会

【日時・場所】

2010 年 1 月 17 日（日） 明治大学 駿河台キャンパス リバティタワー

【参加大学・ゼミ】

11 大学 13 研究会

【企画構成】

発表、学生議員間交流（昼食）、閉会式・全体挨拶

【企画趣意】

政策提言会は、「政策フォーラム 2009」において政策提言の面から高く評価された学生達に、政策に最も近い国会議員の方に対して、直接政策提言を行って頂くイベントです。

このイベントでは、学生が提言する政策を国会議員の方に評価して頂くことで、学生の政策を社会に少しでも反映させるとともに、議論を通して新たな気づきを得て、今後の学生の成長へつなげることを目的としております。

【参加ゲスト】

衆議院議員

相原 史乃 様

衆議院議員

山崎 誠 様

衆議院議員

河上 みつえ 様

政策秘書

湯川 憲比古 様

衆議院議員

熊谷 貞俊 様

政策秘書

石田 敏高 様

衆議院議員

高山 智司 様

政策秘書

小野 貴樹 様

【参加班・論文表題】

分科会	大学	研究会	論文表題
医療	同志社	風間規男研究会	新型インフルエンザ対策 厚生労働省への提言 —そうだ、携帯電話を使おう—
環境	千葉	倉阪秀史研究会	エコポイント制度による家電製品大型化の防止
教育	明治	加藤久和研究会	0 学年教育の導入 —義務教育の質の向上を目指して—
行政	大阪	山内直人研究会	出生行動の実証分析—第2子第3子出生の決定要因—
金融	神戸	岩壺健太郎研究会	J-REIT 復活の処方箋
交通政策	南山	石川良文研究会	モビリティ・マネジメントの新しい提案 —「富士市特定バス路線の利用促進策とその効果分析」を事例に—
国際金融	京都	岩本武和研究会	アジア債券市場の育成
国際政策	神戸	石黒馨研究会	農政改革による EPA 促進—集落営農とコメの価格競争力強化—
財政	慶應義塾	吉野直行研究会	国家破綻の懸念とその解決策 —国債の利回りからみる日本の財政状況—
産業	千葉	倉阪秀史研究会	コンビニエンスストアにおける「食品見切り販売」の社会的効果
地域政策	名古屋	多和田真研究会	愛知県の産業連関分析—新しい産業構造を求めて—
農業	一橋	佐藤主光研究会	日本農政への提言—減反政策の廃止による日本農業の活性化—
労働	日本	豊福建太研究会	労働市場の効率化にむけて—労働 CSR 活動による株価の変動—

【企画責任者より】

政策提言会は、昨年末の政策フォーラムにて政策提言の面から高く評価された学生が、政策に最も近い国会議員・政策秘書の方に直接政策提言を行う、I S F J 2009 年度の集大成といえるイベントです。このイベントでは、学生が提言する政策を国会議員・政策秘書の方に評価して頂くことで、学生の政策を社会に少しでも反映させ「学生による望ましい社会の実現」を行うことを目的としております。

当会にて発表された財政・教育・医療・国際金融・国際政策・金融・交通・地域・産業・農業・環境・行政・労働の 13 のテーマは、民主党衆議院議員の高山智史様、相原史乃様、河上みつえ様、熊谷貞俊様、山崎誠様ほか 3 名の政策秘書の方々に御講評頂きました。学生のなかには、政策フォーラム後も更に政策をブラッシュアップさせたグループもあり、講師の方々からの厳しい指摘にもめげることなく議論を交わしておりました。休憩の際には学生と講師の方々との交流の場を設け、積極的に国会議員・政策秘書の方々と会話を交える学生も多数ありました。

最後には各講師の方々から当会・参加学生に対し高い評価を頂き、盛会の下無事終了致しました。

財務報告

支出		収入	
1.東日本イベント運営費	57964	1.論文参加費	484000
東日本第1回参加ゼミ説明会	0	2.協賛金収入	555500
東日本第2回参加ゼミ説明会	0	3.新人研修合宿参加費	87000
東日本第1回勉強会	6600	4.前期繰越金	1334282
東日本第2回勉強会	11800		
東日本中間カンファレンス	0		
東日本第1回中間発表会	21016		
東日本第2回中間発表会	18548		
2.西日本イベント運営費	82883		
西日本参加ゼミ説明会(計2回開催)	924		
西日本第1回勉強会	12012		
西日本第2回勉強会	11449		
西日本中間カンファレンス	1375		
西日本第1回中間発表会	30672		
西日本第2回中間発表会	26451		
3.政策フォーラム運営費	211325		
ゲストお礼代	60674		
優秀論文特典(10000円×11ゼミ)	110000		
表彰状代	2625		
印刷代	17060		
文房具	2586		
物品配送費	16910		
雑費	1470		
4.政策提言活動費用	70000		
参加者移動費補助(10000×7ゼミ)	70000		
ゲストお礼代	0		

ISFJ 日本政策学生会議

Inter-university Seminar for the Future of Japan

5.広報費	270170		
名刺代	56860		
ドメイン・サーバ更新料	5210		
2009 年度パンフレット代	110600		
2008 年度パンフレット増刷分	60800		
団体案内書代	36700		
6.新人研修合宿費	209941		
宿泊費	61471		
会場費	148050		
振込手数料	420		
7.渉外費	28523		
ゲスト渉外費	2540		
企業渉外費(13 期分)	10250		
企業渉外費(14 期分西のみ)	7383		
その他渉外費(13 期分のみ)	8350		
8.運営費	465483		
事務備品費	1003		
出張費	339620		
運営委員交通費	120545		
手数料	1575		
送料	2740		
当期支出合計	1396289		
9.次期繰越金	1064493		
支出合計	2460782	収入合計	2460782

※2010 年 3 月現在

協賛企業



極東証券株式会社



加藤産業株式会社



パナソニック株式会社



by ダイヤモンド・ビッグ&リード

株式会社 ダイヤモンド・ビッグアンドリード



住友化学株式会社



株式会社有斐閣



株式会社 ジースタイラス



株式会社 ケー・シー・エス

物品協賛企業



ネスレ日本株式会社



健栄製薬株式会社

「政策フォーラム 2009」後援団体

内閣府 経済社会総合研究所

社団法人 日本経済研究センター

株式会社 浜銀総合研究所

株式会社 PHP 総合研究所

株式会社 富士通総研

参加大学・研究会一覧

＜東日本＞

大学	研究会
慶應義塾大学	大村達弥研究会
慶應義塾大学	河井啓希研究会
慶應義塾大学	木戸一夫研究会
慶應義塾大学	櫻川昌哉研究会
慶應義塾大学	竹森俊平研究会
慶應義塾大学	高田晴仁研究会
慶應義塾大学	辻幸民研究会
慶應義塾大学	土居文朗研究会
慶應義塾大学	樋口美雄研究会
慶應義塾大学	吉野直行研究会
創価大学	高橋一郎研究会
千葉大学	倉阪秀史研究会
中央大学	FLP横山彰研究会
中央大学	横山彰研究会
東北大学	西澤昭夫研究会
東北大学	工業経済研究会
日本大学	岸井隆幸研究会
日本大学	豊福建太研究会
日本大学	宮里尚三研究会
一橋大学	佐藤主光研究会
明治大学	小川智由研究会
明治大学	勝悦子研究会
明治大学	加藤久和研究会
明治大学	高浜光信研究会
明治大学	千田亮吉研究会
明治大学	畑農鋭矢研究会
明治学院大学	西村万里子研究会
横浜市立大学	藤野次雄研究会
立教大学	高原明生研究会
早稲田大学	縣公一郎研究会
早稲田大学	須賀晃一研究会
早稲田大学	藪下史郎研究会

＜西日本＞

大学	研究会
大阪大学	野村茂治研究会
大阪大学	山内直人研究会
大阪市立大学	朴一研究会
関西大学	林宏昭研究会
関西大学	前川聡子研究会
関西学院大学	井口泰研究会
関西学院大学	上村敏之研究会
北九州市立大学	古賀哲矢研究会
京都大学	岩本武和研究会
京都産業大学	岑智偉研究会
京都産業大学	菅原宏太研究会
京都産業大学	田中寧研究会
京都産業大学	福井唯嗣研究会
京都産業大学	藤野敦子研究会
京都橘大学	高山一夫研究会
神戸大学	石黒馨研究会
神戸大学	石原享一研究会
神戸大学	岩壺健太郎研究会
神戸大学	忽那憲治研究会
神戸大学	久保広正研究会
神戸大学	地主敏樹研究会
神戸大学	松林洋一研究会
同志社大学	伊多波良雄研究会
同志社大学	風間規男研究会
同志社大学	橘木俊詔研究会
同志社大学	八木匡研究会
同志社大学	山田礼子研究会
名古屋大学	多和田真研究会
南山大学	石川良文研究会
南山大学	寶多康弘研究会
立命館大学	古川彰研究会
龍谷大学	木下信研究会

26 大学 64 研究会

ISFJ 日本政策学生会議 2009 年度 活動報告書

<代表>

早稲森 啓太（慶應義塾大学）

<編集者>

細野 健太郎（横浜市立大学）

<執筆者>

雑古 めぐみ（大阪大学）

中嶋 聖子（大阪大学）

宮下 雄登（早稲田大学）

山本 一馬（早稲田大学）

渡邊 崇（早稲田大学）

<発行>

2010 年 3 月

<連絡先>

info@isfj.net

ISFJ 日本政策学生会議

Inter-university Seminar for the Future of Japan